

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101174		
法人名	特定非営利活動法人 大瀬戸福祉サービス		
事業所名	特定非営利活動法人 大瀬戸福祉サービス グループホーム わらび苑		
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸壱浦郷1468番地		
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果市町村受理日	平成23年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成23年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本事業所は平成12年5月の開設以来、地域における新しい認知症ケアのあり方を実践するとともに、地域における高齢者福祉のあり方について、行政機関等と協働しながら活動しており、その活動状況や実践内容には高い評価を得ることが出来ているものと確信しています。常に地域の将来を見据えた運営を心掛けるとともに、地域の課題にも積極的に関わっています。そのような活動から認知症になっても地域の人達が安心して地域で暮らし続けられる環境を整備すると同時に、家族等が抱える心配事などについても相談にのれる体制を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

22年度はご利用者の入退居が続いたが、職員は常に、ご利用者の不安な気持ちに寄り添い、年長者としての敬意を持って接しており、「職員の声のトーンが柔らかくなっている」と、理事長も職員の方々を評価されていた。花を愛するホーム長の姿勢は、次第に職員にも波及し、愛情込めて育てられた花々の数が増えていっている。ホーム内にもたくさんの花鉢が飾られており、ホーム内は常に清潔に保たれている。お天気の良い日には窓を開けて換気が行われており、台所の音、食事作りの香り、掃除機の音なども心地よく、季節感や生活感を感じる当たり前の生活が行われている。ご利用者の希望を聞きながら献立が考えられ、栄養バランスにも配慮され、地域の方や小学生が作った野菜の差し入れも取り入れた料理が食卓に出されている。料理の得意なご利用者も多く、調理の下ごしらえや食器洗い等も職員と一緒に楽しんでいる。ホーム周辺は自然に包まれており、ご利用者は、日常的にホーム周辺の散歩を楽しまれており、「みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく」を大切に、毎日を笑顔で過ごされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	代表者及び全職員は理念を理解しており、認知症の人が地域の中で普通に暮らすことが出来るように理念を共有し、実践している。	新しい職員と共にチームワーク作りを続けてきた。理事長の思い(理念)は全職員に伝わり、職員は常に、ご利用者の視点に立った支援を考え、実践している。「みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく」という理念のもと、ご利用者との団欒を楽しみ、“できること”を丁寧に見つけながら、日々の生活の中で役割作りを続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りには毎年地域の方々が参加しており、老人会からも毎年タオル等の贈呈を受けている。代表者と事業所は一体的に捉えられている。	春の祭礼や花祭り、ふるさと祭りなどにも参加し、毎年恒例の指定席で楽しんでいる。地元の西彼杵高校茶道部の方から、毎年12月にフラワーアレンジメントを頂いており、ご利用者の笑顔が溢れる機会となっている。代表者の地域への思いは変わらず、市の方々と協力しながら、地域のための取り組みを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	加盟している西海市福祉施設連絡協議会を通じて西海市より受託している介護教室等の講師をして貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見は、事業所に対するものでない場合であっても参加者全員で考えてサービスに活かすようにしている。	単独での開催も行ったが、「系列ホームとも一体的に捉えているので一緒に開催してほしい」との意見がほとんどであり、4ヶ月に1回、同法人の他のホームと合同で開催している。ご家族や地域包括の職員、市の担当者、民生委員、区長が参加されており、スライドを使って日頃の状況を報告し、参加者から意見を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から地域全体の課題について話し合える関係があり、協働しながら取り組んでいる。	理事長は、地域の認知症地域支援体制構築等推進協議会のアドバイザーの委任を受け、西海市と協力し、地域全体の課題解決に向けた取り組みを続けている。高齢者虐待に関する被虐待者の一時保護や対応について、市担当者・関係機関と協働で取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から、如何なる事由であっても身体拘束しないことにしている。(例外はない)	“いかなる場合も身体拘束はしない”という理事長の考えを職員は理解しており、ご利用者の思いに寄り添い、日々のケアに取り組まれている。防犯上、夜間のみ玄関を施錠しているが、日中は鍵をかけることはなく、ご利用者が自由に屋外へ出かけられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	代表者が人権擁護委員を務めており、職場内で学ぶ機会をもっており、地域における虐待防止活動にも市とともに取り組んでいる。マスコミ等で報道がされた都度の勉強もしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見制度については、代表者が講師となって学んでおり、関係機関と連携して活用できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、重要事項説明書は懇切丁寧に説明することを旨とし、家族等に判りやすく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、利用者や家族等の意見に耳を傾けることを心掛けている。家族等が気楽に立ち寄れて何でも話し合えるようにしており、その中から運営に反映されるものは活用できるようにしている。	22年度に入居された方も多いが、団欒時やお部屋等でゆっくりお話しをしている。ご家族からは、面会時や運営推進会議の機会等に意見を頂いている。年に2回、家族会を行っていたが、「ホーム行事での集いも行っているので、家族会は行わなくてよい」との意見も頂き、今後は、行事の場で集う機会を継続していく予定にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会等を通じて、職員が代表者や管理者に何でも言える職場づくりを心掛けており、意見等があれば運営に反映できる体制を整えている。	新人職員の方も、疑問点等を気軽に先輩職員に相談できている。職員は、家族会や敬老会等の行事の開催など、意見やアイデアを提案しており、職員会議の場で検討が行われ、行事の運営等に反映されている。ホーム長が個別に話を聞くことも多く、職員の思いを知るように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス方を策定しており、職場内外の研修等を通じて職員個々の能力等を把握し、職員がやりがいを持って就業できるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の勤務年数等に応じて資質向上が図れるよう日々のケア現場で学ぶ意欲が持てるように心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ケア研究会や市福祉施設連絡協議会等を通じて地域で福祉に携わる人たちとの交流の場を確保してサービス向上に繋げている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	知らない場所で生活することになる本人の思いや不安を受け止め、本人が安心できる環境を整えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人の思いや家族等が求めていることに対して、事業所が出来ることを説明し、家族等が安心して生活できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前から本人にとって必要なサービスは何かを話し合いながら、本人を中心に据えたサービスのあり方を話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人から教えてもらえる場面を多くつくり、本人から学ぶ姿勢を大切にしながら共に暮らしていると思える関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の暮らしぶりや家族等が気づいたことなどを共有して、本人と家族等が楽しいと感じられる環境を共に築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの関係を大切に、その関係が継続できるよう、家族や知人等が気軽に訪問しやすい環境づくりに努めている。	ご利用者との会話の中で、馴染みの人や昔遊んでいた場所等も把握するように努めている。職員やご家族の支援で、馴染みの店での買い物や、以前から利用している病院への受診を続けている。ホームの車を見かけた地域の方が声をかけて下さることもあり、「遊びにきてください」と伝えるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士と一緒に楽しい一時が過ごせられるよう職員が仲介役となり、一人一人が孤立しないように支援している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても家族等との関係が途絶えないような関係を築くために、行事等への参加などをお願いすることで関係を継続している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない日々の会話やコミュニケーション記録簿から本人の希望や意向が読み取れるように心掛けている。困難な場合は、仕草や表情からも読み取れるよう日々取り組んでいる。	22年度に入居された方も多く、日々の生活の中で好みや意向等を伺うようにしている。毎日、ご利用者の何気ない言葉を“コミュニケーション記録簿”に記録しており、センター方式の書式も用いて、職員間で共有している。また、ご家族や面会に来られた方が、ご利用者と会話されている内容から、思いを知ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係者などから聴き取るようにしており、本人にとって心地よい生活環境になっているかどうかを常に意識して、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活パターンや日々の会話、動作から、その人の心身状態や有する能力を見極める努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	暮らしのシートや日頃の関わり、家族等との会話などから、全職員で考えながらモニタリングを実施し、本人の現状に即した介護計画を作成している。	職員全員でアセスメントし、それをもとに計画作成担当者が計画の原案を作成し、全職員で話し合いながら計画を作り上げている。職員全員で評価を行っており、かかりつけ医やご家族にも意見を頂いている。22年度は、より重点項目に関する個別援助計画書を職員が作成しており、ケアの効果も出てきている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌、業務日誌、夜勤日誌、排泄記録簿、コミュニケーション記録簿等で職員間の情報の共有ができており、日頃の気づきは記録に残すようにしており、介護計画に反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単に介護サービスだけに捉われないで、家族や本人の現状を考えて、様々な相談や援助ができるよう柔軟な取り組みをしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な場面で利用者が安心して暮らしていけるような意見交換ができる機会を多く持っており、必要に応じて地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前から「かかりつけ医」で診療できるように支援している。通院については希望されれば職員が通院介助し、受診結果はその都度家族に報告している。	ホームの協力医やご利用者のかかりつけ医共に、いつでも相談に乗って頂ける関係ができており、早期治療に繋げることができている。状態急変時の連絡方法に関しても、ご家族の都合を聞きながら、より具体的な報告ができるように努めている。	ご利用者の心身の変化も含めて、今後も、ご家族との連携を確実に行うために、入居の段階から、ご家族の緊急連絡先(時間帯含めて)を、より密に相談していく予定である。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関や利用者のかかりつけ医の看護師と連携がとれおり、適切な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるリロケーションダメージを極力防ぐため、医師と話し合い、出来るだけ早期退院が出来るように努めている。状況に応じて付き添いや食事介助など実施する場合もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る範囲を明確にし、その場面では家族、主治医、関係者等と協働できるように心掛け、常に情報の共有ができる体制を整えている。	入居時だけでなく、ご利用者の体調に変化が見られた時に、ご本人やご家族に意向を確認しており、意向に応じてホームでの看取りケアを行うようにしている。ご家族、主治医、関係者等と話し合いを繰り返し、関係者全員でホームで行える最大のケアについて、方針を共有できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応が出来るよう消防署の「普通救命講習Ⅰ」を受講しており、緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者の状態把握と一人一人の避難方法等訓練を通じて全職員が把握している。消防署や消防団との協力体制を整えている。	年に2回、消防署員の立会いのもと、ご利用者と職員で避難誘導訓練を行っている。市の福祉施設連絡協議会を通して、災害時には市内の福祉施設と連携を取りながら、他施設からの支援も受けられるようにしている。災害時に備えて、飲料水や食料の備蓄を準備している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を傷つけないような言葉づかいを全職員が心掛けており、その人の人権を大切に声かけをしている。	「職員の声のトーンが柔らかくなっている」と理事長は感じており、職員は常に、ご利用者に対して年長者としての敬意を持って接している。ご利用者への言葉遣いや大きな笑い声等、日々のケアの中で気付きがあった時は、管理者から職員へ伝えたり、職員同士で注意することで改善を図っている。情報管理も徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々に合わせた声かけを基本とし、自分の思いや希望を表出することが困難な人には、その仕草や表情から読み取れるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人一人がその日の体調や気持ちを尊重して、個々のペースで過ごせるような支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援しているが、外出等におしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。支援はさりげなく行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられるよう季節の新鮮な食材を使い、食材を話題にしながら、一緒に皮をむいたり、刻んだりしている。職員と利用者が一緒にテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。	献立は、ご利用者の希望を聞きながら考えており、カロリーや栄養バランスに配慮したメニューとなっている。地域の方から頂いた野菜や小学校で作った野菜等、季節の食材を多く取り入れた料理が出されている。料理の得意なご利用者が多く、調理の下ごしらえや配膳下膳、食器洗い等、職員と一緒に楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量、水分補給量、カロリー摂取量などを記録に残している。水分補給が困難な方には代替品での摂取等で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、口腔内の清潔に心がけ、一人一人の状態に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄記録をとり、個々の排泄パターンを把握し、排泄の自立支援を行っている。	職員は、それぞれのご利用者の排泄間隔を把握しており、一人ひとりに合った誘導の介助を行うことで、多くのご利用者がトイレでの排泄を行われている。職員は、声掛けの仕方を工夫したり、トイレのドアを閉める対応を行い、ご利用者の羞恥心や不安に配慮した対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や適度な運動等により自然排便が促されるように支援している。排便状況も排泄記録簿に記録して確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、1日おきになっているが、希望に添って毎日入浴できるように対応している。入浴時間や湯温は利用者の好みに合わせている。	週3回の入浴日を設定しているが、入浴を好まないご利用者には、声かけの仕方を工夫したり、曜日を変更する等の対応を行っている。時には、理事長から声かけをして頂くこともある。広い浴室内は、安全面に配慮して、滑らないように滑り止めマットが活用されている。季節に応じて、柚子湯や菖蒲湯等を楽しんで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の生活リズムを把握し、必要な休息が取れるように支援している。出来るだけ眠剤に頼らないように日中の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を利用者ごとに整理し、内容把握できるようにしており、服薬時にはその有無を確認している。副作用等についても書籍を用意して誰でも調べられるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のその日の雰囲気で行ってえり、食器拭きや洗濯物たたみ等、自ら職員に声をかけて手伝いの意志を伝える場面も日常的にある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、散歩等その日の体調や希望に応じて支援している。また、家族と外出される方もおり、一人一人の希望に添った支援に心掛けている。	ご利用者は、日常的にホーム周辺の散歩を楽しまれており、ご利用者の希望に応じて、馴染みの店への買い物や運動公園のつつじ、コスモス畑への花見等へ出かけている。外出が少ないご利用者でも、ホームの庭で食事したり、歌を歌ったりと、戸外で過ごす機会が設けられている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと心配される方もおり、その人の希望に添った支援をしているが、お金の管理が困難な場合は家族と話し合っって権利擁護事業の利用に繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話かけたり、受けたりし易いように電話の設置場所にも配慮し、家族等と楽しく話せるような雰囲気作り心掛けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所の音、食事作りのにおい、掃除機の音などの生活感や季節に合わせた窓からの心地よい風の取り入れなど、事業所の内外で季節感が味わえて心地よく過ごせる空間づくりに心掛けています。	ホームの周りの花壇には、ホーム長が愛情込めて花を育てておられ、ホームの廊下やリビングにもたくさん花鉢が飾られている。ホーム内は常に清潔が保たれており、窓からの光はレースのカーテンで調節しており、夏の強い日差しには、窓からすだれを下げて対応した。温湿度の管理もこまめに行われており、お天気の良い日には、窓を開けて随時換気が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが自分の居心地の良いスペースを確保しており、一人一人がゆっくり生活できるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが自分の使い勝手が良いように配慮し、家族等が面会にこられた時にも違和感なく、くつろげるようにしている。	入居の時に、馴染みの物を持ってきて頂くようにご利用者とご家族へお伝えしており、自宅で使っておられたタンスやテーブル、人形、置き時計等持参されている。玄関近くのお部屋には、外から見えないようにと、入り口にレースのカーテンが掛けられている。ペットからの転落を心配される方には、ペット柵を取り付け安心して休んで頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントから見える個々の状態から、それぞれが持っている力を出して自立した暮らしができるような工夫をしている。		

事業所名: グループホーム わらび苑

作成日: 平成 23 年 3 月 17 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30	利用者に緊急事態が生じた場合の連絡方法について昼間と夜間帯での連絡方法等を家族と再確認する必要がある。	利用者の緊急事態の内容によって、家族が望む連絡方法で連絡することで家族との連携を強める。	それぞれの家族の状況に応じて、昼間と夜間帯で確実に連絡が取れるよう、すべてり家族と再確認する。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月